大学院：学校臨床心理専攻，臨床心理面接特論Ⅰ

授業の双方向性と自立的思考の育みを目指した授業実践

教育実践総合センター・信原孝司

1.授業の概要

臨床心理面接特論Iは，心理臨床の専門性について，特に力動的・深層心理的心理療法の視点から理解を深めることを目的としている。またこの科目は，こころの専門家である臨床心理士を目指す大学院学生にとっては必修科目であり，全ての履修者が臨床心理士資格の取得を目指している。

2.導入

授業では，昨年の学生からの授業評価を参考として，初回に授業進行予定を周知徹底するようにしている。これによって学生は今後の見通しを持って授業に取り組め，事前予習や関連事項の事後復習の効果を期待している。

以下は今年度の授業内容である。

(1)オリエンテーション
(2)臨床心理面接での問題理解と面接構造
(3)臨床心理面接における技法
(4)精神分析について
(5)心理療法の初期面接
(6)映画を通して臨床心理面接を考えるⅠ
(7)ディスカッション
(8)心理療法の基本技法　－ 質問・明確化・直面化・解釈 －
(9)面接中期　－ 転移・逆転移 －
(10)面接終期　－ 抵抗・気付き・ワーキングスルー －
(11)映画を通して臨床心理面接を考えるⅡ
(12)ディスカッション
(13)心理臨床トピックス…「選択」と「傷付き」について
(14)前期振り返り・レポート作成
(15)まとめ・レポート提出

２．進め方の工夫

授業では，教員と学生とのやり取りが出来るだけ双方向となるようにし，自立的な思考や発表が出来る力を育むよう工夫した。例えば，

Ⅰ．ビデオ映像を利用し，学生の印象に残るような工夫をし，意見や感想を聴取する。

Ⅱ．毎授業の最後には，学生からの質問を受け付け，それに応える時間を設ける。

Ⅲ．学生が自分の意見を発表する形式（ディスカッション）を盛り込み，自分で考える力が付くように役立てる。

Ⅳ．講義で学んだことのまとめに映画を用い，共感する能力を高め，論考する力が付くよう工夫する。

等である。

上述した予定表をもとに具体的に説明すると，

Ⅰでは授業の折々でビデオ映像を用い，学生に理解しやすい，印象に残りやすい授業となるよう工夫した。

Ⅱは毎回の授業で行なうが，学生の質問に直接答えるのではなく，時には受講者全員でディスカッションして，自分で考えるよう工夫した。

Ⅲは毎回の授業で可能な限り用いているが，特に映画を観た翌週には，臨床心理学的な観点からディスカッションするようにした。

Ⅳでは授業の流れ・テーマに沿った映画を用い，こころの葛藤や不安や悲哀等を感じ，それらの気持ちに如何に支援していくかを検討した。

今年度は(13)で，便利で豊かになった現代社会では「選択」出来る機会が増え，アイデンティティに関わる問題としての「傷付き」が増えていることに触れ，現代的なテーマへの理解を深めるようにも配慮した。

(14)ではレポートを課しているが，レポートの課題は次の３つである。

(a)授業で学んだことを踏まえ，映画をあなた独自の臨床心理学的視点から論考せよ。

(b)前期授業からあなたが学んだ点について論考せよ。

(C)授業への評価として，「授業の良かった点」と「改善を望む点・授業の進め方や内容に関する提案など」を自由に書いて下さい。

(a)(b)の課題によって授業全体の振り返りをし，(b)の課題によって，自分の考えを文章にまとめるよう促した。最後の(c)では，学生からの声を来年度の授業に反映させるよう留意したが，評価に関わるレポートでもあるので，伝え難い部分もあるかも知れない。